

# 平成28年度事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

## (概要)

当連盟は、平成25年4月1日付にて「非営利型の一般社団法人」への移行認可を得て新法人として発足、定款第5条に規定される諸事業を実施した結果、3年間で「公益目的支出計画の実施を完了して、平成28年12月12日付にて「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を内閣府より受領しました。

本年度からは、内閣府が規定する公益目的支出計画を策定してそれに従う必要はありませんが、当連盟の事業の継続として、定款第5条に規定される各事業を前年度と同様に計画して実施しました。

## (事業活動)

継続事業 1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業  
(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

実施事業 I. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2016 (若洲大会)

8月5日(金)～7日(日)、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、東京都ヨット連盟、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団との共同主催にて開催しました。

本年も独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受け、東京都からの補助金(公益財団法人東京都スポーツ文化事業団)と各企業からのプログラム広告料の支援を頂きました。

アサヒ飲料株式会社、エスビー食品株式会社の協賛を頂き、競技会期間中の飲物、最終日のカレーライスを提供出来ました。

海外からニュージーランド、オーストラリア、シンガポール、香港、韓国、タイ王国、ロシアの7カ国(選手23名、指導者・保護者22名を招聘しました。

OP級初級者28艇、OP級上級者56艇(内、外国18艇)、レーザー4.7 17艇(内、外国5艇)、国際420級6艇(12名)、FJ級8艇(16名)の参加選手129名、指導者・保護者156名、運営役員53名の総勢338名の規模となりました。

昨年の競技会から、シーマンシップに溢れた選手を表彰する「小澤吉太郎特別賞」を設けましたが、本年度は浅虫ジュニアヨットクラブの秋山翔選手に授与されました。

国内クラブ対抗レースの上位3クラブには海外セーリング研修派遣資格各1名授与(渡航費援助)のJJYU会長特別賞を設け、葉山町セーリング協会、藤沢市青少年セーリングクラブ、ユースチーム東京に授与されました。

実施事業 II. 第5回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ (ミキハウス杯 大阪2016)

本年10月15日(土)～16日(日)、昨年と同じ会場の大阪北港マリーナで、三起商行株式会社(ミキハウス)の特別協賛と、大塚製薬株式会社、ゆうこうマリン株式会社の協賛を頂き、大阪北港ヨットクラブ、大阪北港ディンギークラブ、大阪北港マリーナ(biid株式会社)の協力

を頂いて開催しました。

初日15日は在日外国児童向け体験試乗会を行い、大阪YMCAインターナショナルスクールの児童6名、保護者6名の参加がありました。

レガッタ参加クラブは5クラブ27名の選手、指導者・保護者42名に加えて、オープン参加のアクセスディンギー親子ペア2名があり、合計71名に、運営役員30名余の合計100名規模でした。

海外セーリング研修参加資格授与のクラブ対抗レースの連盟会長特別賞は、B&G高松海洋クラブに授与されました。

実施事業 III. 第26回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウス杯 東京2016）  
9月4日（日）、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製菓株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共催で開催しました。

参加艇数は、OP級上級者22艇、OP級初級者30艇、レーザー4.7が8艇の合計62艇でした。指導者・保護者39名に運営役員その他に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者の体験試乗会に子供が10名、保護者等の帯同者が7名計17名の参加で総勢200名程となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

沖のA海面は生憎風が弱い状況で、荒川の流が速く、レース艇も運営側も苦労しましたが、OP級上級者は3レース、レーザー4.7は2レースを実施出来ました。

ポンド内のB海面は弱い風ながら3ディビジョンに分けて予選3レースを実施し、決勝も無事に3レースを実施出来ました。

海外セーリング研修派遣資格授与のクラブ対抗レースは江東区立小中学校セーリング部が優勝し、会長特別賞が授与されました。

実施事業 IV. 第4回ジュニアヨットクラブジャンボリー

昨年より5月ゴールデンウィークに開催する事になったジュニアヨットクラブジャンボリーは今年で第4回となり、2泊3日で、5月3日（火・祝）～5月5日（木・祝）に、静岡県浜松市の「三ヶ日青年の家」で実施しました。各クラブの子供達がクラブ毎ではない合同合宿をしながら、ヨットレースだけでなく、あさり採りやカヌーやサップでの水辺の遊びに加えて、ヨットの勉強会、アメリカズカップの講演会など、交流を深め友達の輪を広げる企画でした。

参加10クラブ、32名の選手に、指導者・保護者他23名、役員・コーチ16名とほぼ昨年並みの総勢71名となり、皆さん大変楽しんでいました。

継続事業 2. 諸外国との交流・親善に関する事業  
（定款第5条 第1項 第4号）

実施事業 V. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っていますが、今年は東京の若洲ということで、東京オリンピック2020に成功への期待を込めて、7カ国招聘しました。

23名の外国チーム選手と監督・コーチ・保護者22名の合計45名の参加となり

ました。

#### 実施事業 VI. 海外セーリング研修派遣事業

- (1) 8月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2016」の国内クラブ対抗レースの上位3クラブに、渡航費の一部を援助して海外セーリング研修の派遣に参加する資格を授与する会長特別賞を本年度も設けました。  
特別賞を授与されたクラブは第1位 葉山町セーリング協会、第2位 藤沢市青少年セーリングクラブ、第3位 ユースチーム東京でした。  
本年度は、「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」の特別賞による研修地は西オーストラリアのパースにすることとなり、平成29年2月1日（水）～2月8日（水）の期間に連盟役員、佐藤公俊委員（国際委員会委員長）と青山義弘理事（国際委員会委員）が引率して、選手の往復渡航費用を連盟で負担支援しました。  
各クラブからの希望もあり、費用自己負担で各クラブ1名の追加参加を認めたので、3クラブから追加参加があり合計6名のジュニアセーラーが参加しました。
- (2) 9月開催のミキハウスカップ東京2016と10月開催のミキハウスカップ大阪2016のそれぞれの優勝クラブに海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞を本年度も設け、それぞれ優勝クラブの江東区立小中学校セーリング部とB&G高松海洋クラブに授与されました。  
本年度は、「ミキハウスカップ」の特別賞による研修地はシンガポールにすることとなり、選手の往復渡航費用を連盟で負担して、3月12日（日）～20日（月）の期間に中川二郎常務理事と小野澤秀典理事が引率して、費用自己負担での参加希望の各クラブ2名の追加参加を含め合計6名の派遣をしました。

#### 継続事業 3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業 (定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号)

#### 実施事業 VII ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

- (1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業  
平成28年6月11日（土）開催の平成28年度定時総会終了後の午後に、指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。  
又、平成28年8月5日（金）～7日（日）東京都立海浜公園ヨット訓練所で開催の日本ジュニアヨットクラブ競技会2016の開会式後に、選手、指導者、運営役員を集めて、丸山晴久理事（医事委員長）による熱中症対策その他の安全講習会を開催しました。  
平成29年2月18日（土）開催の平成29年2月度理事会（平成28年度第5回理事会）の終了後の午後に、指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。
- (2) 指導者の養成事業  
連盟の公認指導員制度に従って、各クラブから新規公認申請の募集を行うと共に、4年毎の更新認定の募集を毎年行っていますが、連盟役員1名の新規公認と連盟役員2名の更新のみで、事務の遅れにより平成27年度末で期限到来の登録クラブの公認指導員の更新を呼び掛けたものの更新申請はなく、新規登録申請もありませんでした。  
指導育成委員会を中心に、公認指導員制度の維持と活性化を図る目的で制度の運用を再構築することを検討し、平成29年2月18日の平成28年度第5回理事

会で「ジュニアヨットクラブの公認指導員認定に関する細則」の改訂案を承認決定され、同日付けにて発効することとなり、各クラブへ案内をしました。今後は新しく改訂された細則の周知に努力し、公認指導員認定の増加を図ります。

(3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業

本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

継続事業 4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業

(定款第5条 第1項 第6号)

実施事業 VIII 広報誌「ユースセーリング」発行事業

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ていますが、広報誌「ユースセーリング」の発行事業は諸般の事情により遅れていましたが、第84号を平成28年10月31日に、第85号を平成29年3月20日に発行することが出来ました。

今後は広報委員会の体制を整えて毎年9月末を目標にしたいと考えています。その他の通常活動として、希望する事前登録メンバー（正会員、特別会員、登録クラブの指導者、保護者、ジュニアセーラーその他セーリング界関係者）に「JJYU通信」をE-mailやファクスで発信する企画を開始しましたが、本年度は「通信 9、10、11、12、13、14」を発信しました。

(会員、クラブの状況その他)

(1) クラブの代表者である正会員は平成29年3月31日現在31名、学識経験者である正会員は19名で正会員の合計は50名です。

(2) 登録クラブ数は平成28年3月31日現在31です。

(3) 特別会員は、昨年度と同じアサヒホールディングス株式会社、株式会社ライフサイエンス研究所、株式会社三洋物産、株式会社三洋販売、スターモア化粧品株式会社の5企業です。(平成29年3月31日現在)

(4) 連盟会長表彰

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、昨年度から発足しました。

平成28年度の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、平成28年5月18日開催の平成28年度第1回度理事会に諮り、下記3名が決定しました。

表彰式(表彰状、記念品の授与)は、平成28年6月11日(土)開催の平成28年度定時総会終了後に定時総会と同じ東京都港区海岸の「島嶼会館」において行いました。

記

- ① 山口史雄氏 (69歳 共和ジュニアヨットクラブ代表)
- ② 笹森俊夫氏 (67歳 浅虫ジュニアヨットクラブ代表)
- ③ 大西和彦氏 (63歳 隠岐ジュニアヨットクラブ代表)

尚、公益財団法人日本セーリング連盟の平成 28 年度定期表彰については、当連盟より推薦した中川二郎氏（当連盟常務理事、横浜ジュニアヨットクラブ代表）が功績賞を授与され、平成 29 年 1 月 21 日（土）、岸記念体育館において表彰式が行われました。

以上